

# 宮川

<http://digitalarchiveproject.jp/information/%E5%8C%97%E5%85%A8/>



宮川の清冽な湧水は、位山と川上岳を結ぶ峰と、それらを結ぶ尾根の裾地から流れ始めます。東や南の絶壁の裾山、下方から湧き出す水は、ツメタ谷となって渓谷の源流となります。そして 川上岳の山のふもと近くの、なだらかな丘地の水を集めたヌクイ谷の温かい水と合流します。その流水が一之宮町の盆地までの 源流・渓谷をつくりだしています。

飛騨の宮川は、日本全国の十数流もある宮川と称する河川の中でも、最も大河と言われています。宮川は、飛騨市北端の富山県境で高原川と合流し、神通川となって、富山湾(日本海)へ流れれます。宮川は、わが国大自然の中でも最大の神々の川なのです。

また、一之宮町の位山には中部日本の分水嶺があります。分水嶺とは、水の流れの方向を分ける境界をなしている山の峰のことです。位山に流れた北斜面の渓水は、餅谷川・常泉寺川となって 宮川に注ぎ、神通川を経て日本海へと流れています。

もう一方の南斜面の渓水は山之口川・無数河川となって益田川に注ぎ、飛騨川・木曽川を経て太平洋へと流れています。

※清冽(せいれつ):水などが清らかに澄んで冷たいこと。





0001\_宮川朝市



0002\_宮川朝市



0003\_宮川朝市



0004\_宮川朝市



0005\_宮川朝市



0006\_宮川朝市



0007\_宮川朝市



0008\_宮川朝市



0009\_宮川朝市



0010\_宮川朝市



0011\_宮川朝市



0012\_宮川朝市



0013\_宮川朝市



0014\_宮川朝市



0015\_宮川朝市



0016\_宮川朝市



0017\_宮川朝市



0018\_宮川朝市



0019\_宮川朝市



0020\_宮川朝市



0021\_宮川朝市



0022\_宮川朝市



0023\_宮川朝市



0001\_宮川橋



0002\_宮川橋



0003\_宮川橋



0004\_宮川橋